

インフルエンザ治療のポイント

症状など考慮し薬剤選択

今季もインフルエンザ流行シーズンが近づいてきた。薬物治療では中外製薬の経口剤「タミフル」、グラクソ・スミスクラインの吸入剤「リレンザ」、塩野義製薬の点滴静注剤「リバクタ」、第一三共の吸入剤「イナビル」といった抗ウイルス薬があるほか、漢方薬も注目されている。治療のポイントを外房ごどもクリニックの黒木春郎院長に聞いた。

——疾患の特徴

ウイルス発見から70年

以上が経過し、ワクチンが存在するにもかかわらず、未だに流行する。イ
 が、必ずしも臨臨的に問
 題になるものではない。
 ——治療戦略

まず、自然治癒が期待できるかを判断し、薬物治療の必要があれば、抗ウイルス薬と漢方薬の組み合わせを考える。抗ウイルス薬を使用する場合には、内服、静注ないし吸入かをウイルスの型、耐性などを踏まえて選択する。

現在の抗ウイルス薬

新型インフルエンザの
際に抗ウイルス薬の全例
投与を日本感染症学会が
推奨したが、季節性につ

め、これで練習して吸入を確認した上で服用する。イナビルは単回投与で済むのが特徴で、この利

で菓削師が果たす役割が大きい。当院と連携する薬局では、菓削師が実際に笛を吸って見本を示し

いては必ずしも全例には必要ないという議論もあり、極めて軽度の場合には投与の是非を見極める

必要がある。
プライマリ・ケアでは
軽度の患者が多く、極端
な例では、症状がなくて

薬剤師指導で確実にイナビル吸入

——抗ウイルス薬選択
の考え方

点を生かすには、自宅に持ち帰らずに診療所の外來や調剤薬局で看護師や薬剤師が見ている前で使

ながら指導し、薬局で患者に吸入してもらっているためコンプライアンスが高い。

を
する
必要
がある。

予防は
 齢者には上乗せ
 で抗ウイルス薬
 を投与すること
 も考えられる。

麻黄系薬剤で随証治療

漢方薬の役割

「傷寒論」という漢方薬の古典がある。汗がなく、関節痛や悪寒があることを「傷寒」と呼んで

臨床研究結果が報告され
ており、私の研究でもタ
ミフルと概ね同等という
データが得られている。

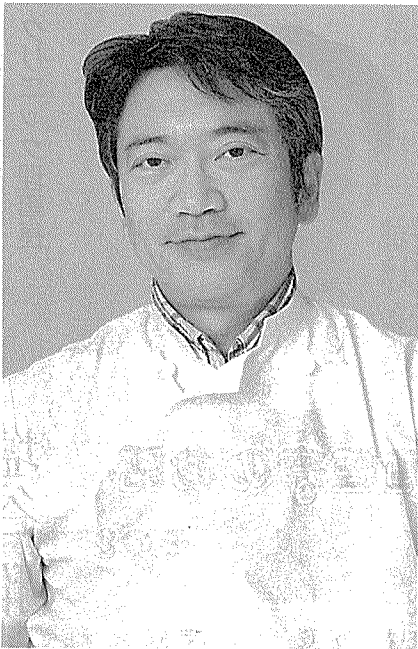
が、完全に感染を防げる
とは限らないことを前提
にしてみたい。

いるが、今で言う急性熱性疾患でインフルエンザとよく似ている。こうし

麻黄湯の単独処方の場合と、抗ウイルス薬との併用の場合があるが、注

合
山
汗

外房こどもクリニック 黒木 春郎院長に聞く



黒木 春郎（くろぎ・はるお）
＝日本小児科学会専門医、日本
感染症学会専門医・指導医。
2005年に外房こどもクリニッ
ク（千葉県いすみ市）を開設。
半径約30km圏内に常勤小児科
専門医がおらず、二次救急病院
まで約50kmという医療環境で、
医師3人で小児プライマリ・ケ
アに取り組む。現在、さらなる
仲間の医師を募集中。400坪の
敷地に100坪の診療所で、広い
駐車スペースも完備。バギーを
押したまま入れるように玄関周
りをバリアフリー化するなど小
児外来ならではの配慮も。

「麻黄湯」は、インフルエンザに対する保険適

ぐったりしている患者には使えない。漢方には「証

強心
第2類
動

麝香・牛黄・蟾酥・人參配合
強心劑
第2類医薬品
回春仙
動悸・心悸亢進・盜汗
昭和化学工業株式会社
滋賀県甲賀市甲賀町大原市場157